

「豊かさ」についての考察（2）

○栗畑亜紀子、今中正美、石渡尚子、朝倉富子、本間小枝子、道本千衣子
（跡見学園女大短大）

目的 昨年に引き続いての「貧困撲滅のための国際年」に際し、貧困は存在しない豊かな国と認識されている我が国において、昨年の調査では95%以上が「食生活を豊か」と感じていた。そこで、本年は「食生活の豊かさ」を食材の面から検討する。

方法 ブランド野菜として売り出されている伝統的京野菜、近年、日本の市場に出回った西洋野菜・中国野菜・輸入果物に対する知名度、食経験等についてのアンケート調査を本学家政科学生及び父兄に行った。

結果 1 伝統野菜は全体的に知名度が非常に低かった。

2 西洋野菜では知名度の高いものは、調査した種類の約半数程度で、モロヘイヤ、クレソンは90%余りと非常に高いものの、全体的にはそれ程高くなく、家庭内で多く食されているものは、クレソンを含む数種であった。

3 中国野菜は特にチンゲン菜の知名度が高く、70%近くが家庭内で食していた。

4 輸入果物は、伝統野菜・西洋野菜等よりも比較的知名度が高く、マンゴー、パパイヤ、ライムは95%を越えており、これらは家庭内でも比較的多く食されていた。

5 これらの食材を食べたいかの質問に対しては、学生は伝統野菜に対しては約60%、西洋野菜・中国野菜に対しては約70%、輸入果物に対しては80%以上が食べたいと答え、その理由については「興味がある」という回答が最も多く認められた。